

2016年5月16日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 松行 美帆子

タイ国バンコク - チェンマイ高速鉄道整備事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2016年4月15日(金) 14:00～18:06
- ・場所：JICA 本部(111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：岡山委員、高橋委員、田辺委員、平山委員、松行委員
- ・議題：タイ国バンコク - チェンマイ高速鉄道整備事業に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配布資料：タイ国バンコク - チェンマイ高速鉄道整備事業に係るスコーピング案資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第69回委員会)

- ・日時：2016年5月16日(月) 14:29～17:24
- ・場所：市ヶ谷ビル(2階 202AB 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 民間企業の地方都市への進出計画、今後の進出にあたっての課題を調査し、DFR に記述すること。
2. 日本の新幹線導入による経験（ストロー効果等のマイナスの経験を含めて）をタイ国政府に伝達し、これらの結果をDFR に記述すること。
3. タイ国に高速鉄道を導入することによる効果（人口誘導、産業誘導、都市活性化など）の根拠を明確に示すとともに、これらの効果を得るために有効かつ必要と考えられる方策についてもタイ国政府に伝達し、これらの結果をDFR に記述すること。
4. 期待されるモーダルシフト効果をできる限り明確にし、またこの効果を得るために必要な交通施策をタイ国政府に伝達すること。
5. 本事業は国立公園等の保護地域をトンネルで通過する予定となっているため、代替案の検討も含め、JICA ガイドラインの「プロジェクトは、原則として、政府が法令等により自然保護や文化遺産保護のために特に指定した地域の外で実施されねばならない」との規定との整合性について十分検討し、DFR に記述すること。
6. タイ国側の2014年FS調査の需要予測で用いられた経済成長率の予測値とIMFや民間シンクタンクの予測値にかい離があることから、予測の妥当性を検証し、より現実的な予測値を用いて、DFR に記述すること。

代替案の検討

7. 代替案ルートの図について、正確なルートと駅の位置、国立公園の位置、トンネル及び橋梁の区間を明確にし、DFR に記述すること。
8. ルート案比較結果（第1及び第5ルート）について、記載を正しく修正し、施工費の差額の内訳を明確にした上で、DFR に記述すること。

スコーピング・マトリックス

9. 景観影響について、アユタヤ遺跡からの眺望への配慮に加え、ロップリ遺跡群周辺での景観影響についても検討し、その結果をDFR に記述すること。
10. 騒音・振動や生態系に関する環境影響は地域特性毎に分割して検討し、その結果をDFR に記述すること。
11. 生態系や保護区への影響として、供用後の騒音・振動、地下水帯水層への影響について調査と緩和策の検討を行い、その結果をDFR に記述すること。
12. プロジェクト実施後の周辺の無秩序な土地開発が想定される場合は、タイ国政府に対して適切な土地管理について働きかけること。
13. 気候変動の影響においては、電力使用に伴うCO₂排出量を考慮し、DFR に記述すること。
14. 微気圧波対策について、DFR に記述すること。

環境配慮

15. 保護地域等における当該工事（トンネル工を含む）がタイ国の法律上、認められる可能性があることを確認し、DFR に記述すること。
16. 代償措置としての植栽においては、現地に産するものと同種の樹種等を用いることを DFR に記述すること。
17. 本事業にて利用する残土処分や土取については、適切な環境管理が行われることを DFR に記述すること。

社会配慮

18. 盛土区間においては地域分断が生じないように、ボックスカルバートや高架橋の設置について、住民協議を行い、DFR に記述すること。
19. 当該事業計画地における移転住民（約 7,600 人）のほか、取得対象となる用地の所有者 / 利用者等の規模（特に移転対象となる非正規住民の有無）について確認し、DFR に記述すること。
20. 事故防止のため立ち入り防止柵の設置等が予定されているが、地域住民及び野生動物の移動の阻害とならないよう検討し、DFR に記述すること。

以 上